



広報

し が や

11月15日

昭和60年(1985) No.747

毎月1日・15日の2回発行

●発行/埼玉県越谷市役所

〒343 越谷市越ヶ谷4丁目2番1号

☎0489(64)2111

●編集/企画部広報広聴課

越谷とわたし

173 ◇◇

「越谷とわたし」では、あなたの投稿をお待ちしています。内容はなんでも結構。字数は900字前後。

昭和49年、越谷市は全国でも珍しい「スポーツレクリエーション都市宣言」をし、これを機会に、市内では種々のスポーツ活動が活発になりました。

した。我が家では子どもが幼稚園に行くなり、妻も働き始めました。わたしも時間的な余裕が持てるようになつたころでした。

早速、わたしはレクリエーション協会の「走る友の会」に入会しました。

年齢、職業、生き方、それぞれ異なる人たちの人生にふれるることは、たいへん有意義だと思います。

この出会いの中に、わたしの人生を大きく変えてくれた人がいました。会の先輩から、通信制高校に行って勉強しているということを聞いたのです。わたしは驚くとともに、その先輩をい

出会い、そして四〇歳からの挑戦

赤山町3の150

村田 喜代志 (44歳)

だけビデオを利用して、帰宅後の一定時間に勉強するように計画したのです。面接授業

学が開校することを知りました。資料で、自宅でのテレビ、ラジオによる放送授業と印刷教材による授業、学習セントラルでの面接授業が毎日行われ、

入学は簡単でしたが、やはり、各科目の内容は高く、単位取得は容易ではありません。一学期はテレビ三科目、ラジオ一科目、そして面接一科目を受

心したのです。当初は不安でした。その不安をひとつひとつ乗り越えて、楽しかったこと、苦しかったこと、多くの思い出を残して、四年間の

大学には、一期生だけでも87名の越谷

これがわかつてきました。子どもたち

も高校生になっていきますので、いつし

の仲間がいるということです。良き出

会いの場をつくることができればと思

っています。



秋深まる散歩道

総合公園グリーンベルト

11月3日、午後2時、晩秋の木漏れ日さす散歩道。色づき始めた木々が、深まりゆく季節に彩りを添えます。ここは総合公園内のグリーンベルト。陸上競技場わきからなだらかな坂道を登り、東部清掃組合第1工場沿いに続く小道です。全長約450メートルの道の両側には、たくさんの常緑樹や落葉樹が植えられ、スポーツの合間、訪れた人たちの心を和ませてくれます。屋下がりの散歩などには最適な場所になっています。

市の人口

(昭和60年11月1日)
(現在住民基本台帳)

前月比

総人口	25万2972人	661人増
男	12万7572人	363人増
女	12万5400人	298人増
世帯数	7万7272世帯	232世帯増



放送大学は、たとえ何年かかっても卒業したいですね、と村田さん



新方公民館・民謡クラブ

全国大会にも出場します

部長は14名。昭和50年から民謡をやっています。公民館のクラブになったのは5年前。みんな歌うことが好きで、仲間ができるのがとてもうれしいことです。「上達よりも、親睦が第一」とあります。部長は「上達よりも、親睦が第一」とあります。でも仲間と一緒に歌うことが好きで、仲間ができるのがとてもうれしいことです。

部長は14名。昭和50年から民謡をやっています。公民館のクラブになったのは5年前。みんな歌うことが好きで、仲間ができるのがとてもうれしいことです。「上達よりも、親睦が第一」とあります。部長は「上達よりも、親睦が第一」とあります。でも仲間と一緒に歌うことが好きで、仲間ができるのがとてもうれしいことです。

越谷市立連観音舞集

■

●

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

血液がピンチです

献血にご協力ください

現在日本では、輸血用の血液は献血によって賄われていますが、時代の進歩、医学の発展に伴い、血液の需要も増え続け、国内の献血による血液だけでは賄えています。

特に、医学的に需要の多い血液中の「血しょう」成分が極めて不足し、この不足分をアメリカなど外国からの輸入血液で補っています。

これは、最近マスクなどで話題になっているエイズ（後天性免疫不全症候群）感染の危険もあります。つい最近、日本でも、この外国からの輸入血液が原因でエイズ患者が発生しました。

この問題の最大の解決策は、なにより国内の方々に「献血」を



◇90

熱性けいれん

小児期は、けいれんを最も起こしやすい時期です。この時期にみられるけいれんの原因はさまざまです。

熱性けいれんは、日常よくみられる疾患で、一般に中枢神経系の感染や著しい脱水、中毒に起因しない38度C以上の発熱によって引き起こされるけいれんと定義されており、大部分生後6カ月から4歳の間に発症します。頻度は3~10%で、報告者によつてまちまちですが、男児に若干高い傾向があるようです。

熱性けいれんは、その名のとおり発熱時にみられるものですが、体温が急に上昇する際にけいれんを起こすと一般的にいわれています。発作の持続時間は、大部分が10分未満で、全身性の強直性間代性けいれんが一般的な発作型です。また、熱性けいれん患児の家族の3分の1から2分の1に同様の熱性けいれんの既往があるといわれていますので、比較的遺伝性の高いものといえます。

さて、実際に熱性けいれんを起こしてしまったうすればよいのでしょうか。けいれんは、ほとんどが数分以内に終わってしまいます。決してあわてず、けがしないよう周囲にある危険物を取り除き、衣服をゆるめ、誤嚥（ごえん）しないよう顔を横に向けてください。そして高熱に対しても、積極的に体温を下げる必要があり、解熱剤（常備しておくとよいでしょう）の投与、およびわきの下、太ももの付け根の所、タオルを巻いた氷のうを当てたり、薄着をさせるなどのクーリング（冷やすこと）をします。もし何十分もけいれんが持続したり、短時間のうちに何回も再発する場合は、お近くの医療機関に相談されるとよいでしょう。

熱性けいれんは、患児の大体3分の1から2分の1に再発があり、その率は、初発年齢が幼若ほど高い傾向にあります。また、熱性けいれん患児の3%前後が、てんかんなどの無熱性けいれんに移行するといわれています。発作が30分以上続く、片側性、短時間内に反復、1歳未満の発症、脳傷害の既往、知恵遅れ、女児およびてんかんの家族歴などといったリスク（要因）があると、無熱性けいれんへ移行する率が高くなるといわれています。

熱性けいれんの予防には、従来から用いられている抗けいれん剤などを発作の好発時期にだけ継続して投与する方法がありますが、確立されたものはありません。しかも、予防投薬をしても無熱性けいれんへの移行率を下げるとはできません。熱性けいれん患児の3分の1から2分の1は1回のみの発作であり、てんかんなどの移行率が非常に低いこと、および抗けいれん剤の副作用などを考慮すると、予防的投薬が本当に必要なかどうかという疑問がわきますが、これも専門家の間で意見が分かれているのが現状です。

市立病院小児科

*「健康メモ」は今回で終わらせていただきます